

# 川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～ その1

令和元年 8月  
川越町教育委員会

本年4月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



## 1. 学力・学習状況調査結果

### 全国学力・学習状況調査について

昨年度まで、A問題（主として「知識」に関する問題）とB問題（「活用」に関する問題）に分けて実施されていましたが、本年度からは統合して実施されています。

#### (1) 川越町小学校

□全体の傾向・・・正答率の低い児童数は減少し、学力の向上が顕著に表れている。

**国語**：正答率の低い児童が少なく、正答率が中位からやや高い児童の割合が多い。

**算数**：正答率の低い児童は少ないが、正答率の高い児童もやや少ない。

	強みと弱み（強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」）
国語	<p>◎全体的に無解答率が低い。</p> <p>◎目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読める児童が多い。</p> <p>◎話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問ができる児童が多い。</p> <p>◇目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力に課題がある。</p> <p>◇文と文との意味のつながりを考えながら、接続詞を使って2文に分けて書く力に課題がある。</p>

算数	<p>◎全体的に無解答率が低い。</p> <p>◎グラフから、資料の特徴や傾向を読み解ける児童が多い。</p> <p>◎示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式できる児童の割合が多い。</p> <p>◇図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する力に課題がある。</p> <p>◇示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述で説明できない児童の割合が多い。</p> <p>◇示された除法の式の意味を理解できていない児童が多い。</p>
----	---

(2) 川越町中学校

□全体の傾向・・・正答率の低い生徒は少なく学力の底上げが見られる。  
(学力の向上が進んでいる。)

国語	正答率のやや低い生徒がやや多い。
数学	正答率の低い生徒から高い生徒まで同じような割合で存在する中、正答率の高い生徒がやや少ない。
英語	平均正答率あたりに多くの生徒が固まっている。

	強みと弱み (強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」)
国語	<p>◎文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考え方を持てる生徒が多い。</p> <p>◎書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる生徒が多い。</p> <p>◇封筒の書き方(宛名など)を理解して書くことに課題がある。</p> <p>◇長文や複数の資料から要旨を捉えて、自分の考えをもつことが苦手な生徒の割合が多い。</p>

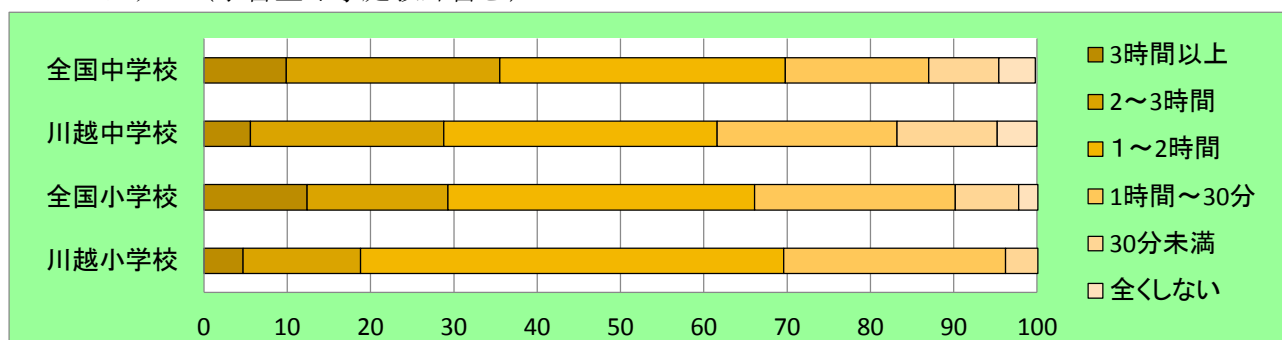
数学	<p>◎簡単な場合について、確率を求めることができる生徒の割合が多い。</p> <p>◎証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している生徒の割合が多い。</p> <p>◇一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解し、具体的事象を捉えて説明することに課題がある。</p> <p>◇表やヒストグラムなどの資料の傾向を読み取り、最頻値・中央値などの用語を用いて数学的に説明することに課題がある。</p>
英語	<p>◎日常的な話題などについて、情報を正確に聞き取ることができる生徒が多い。</p> <p>◎日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる生徒が多い。</p> <p>◇聞き取りや読み取りから把握した内容について、自分の思いを英文で書いたり、話したりすることに課題がある。</p> <p>◇与えられたテーマについて考えを整理し、比較的長い文章（英文）で書くことに課題がある。</p>

### (3) 児童生徒質問紙による生活調査結果

#### ①学習時間帯

**\*小学生の70%が1時間以上家庭学習の時間を確保しているが、中学生は62%にとどまっている。**

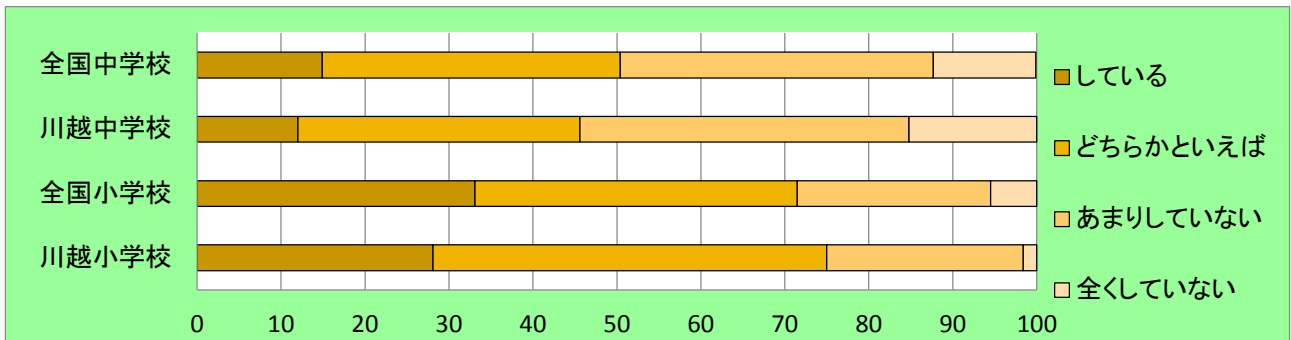
Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師含む）



②計画的な家庭学習

\*小学生の75%が自分で計画を立てて勉強しているが、中学生は46%にとどまっている。

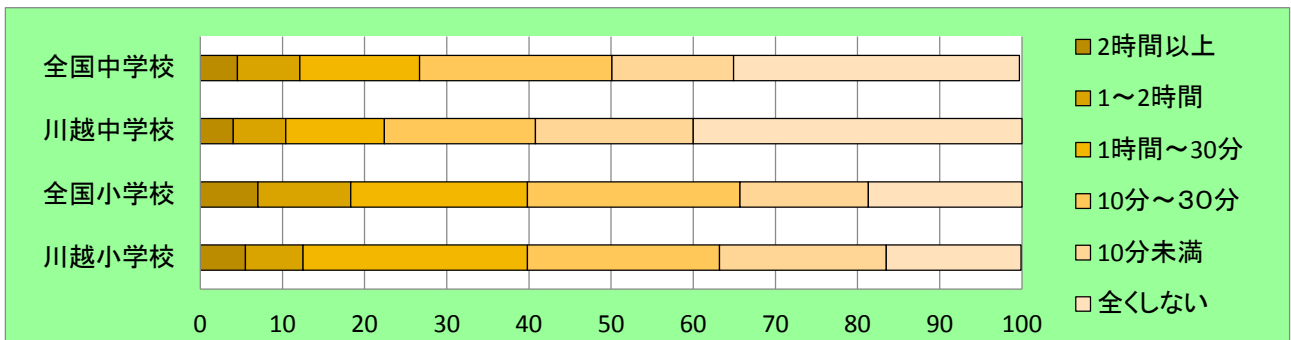
Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



③読書習慣

\*町内小中学生の1日あたりの読書時間は短い。

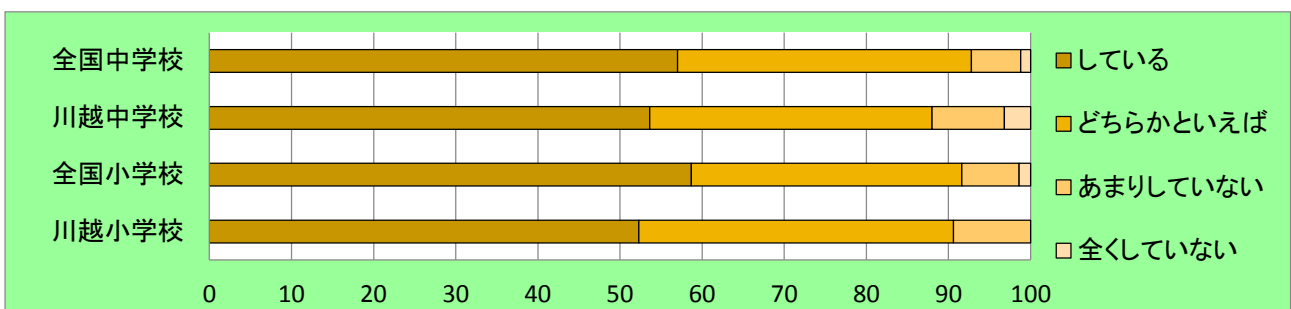
Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）1日あたりどのくらい読書をしますか。



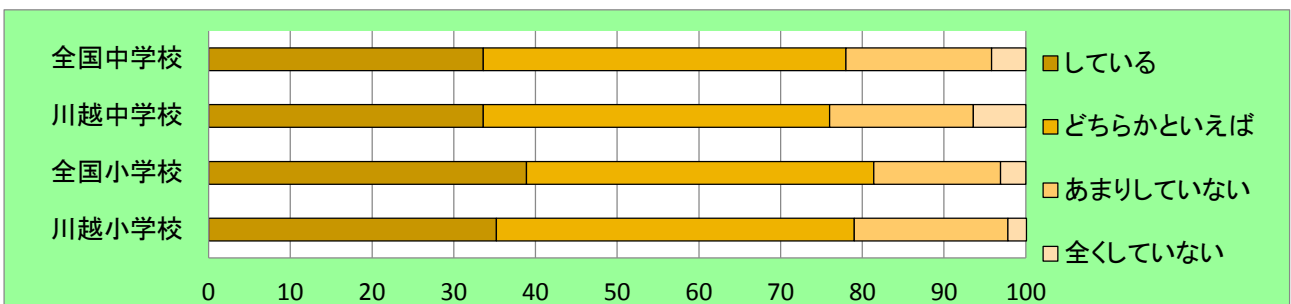
④基本的な生活習慣

\*小学生・中学生ともに、ほぼ規則正しい生活が送れているが、起床時間については約1割、就寝時間に関しては約2割が不規則である。

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



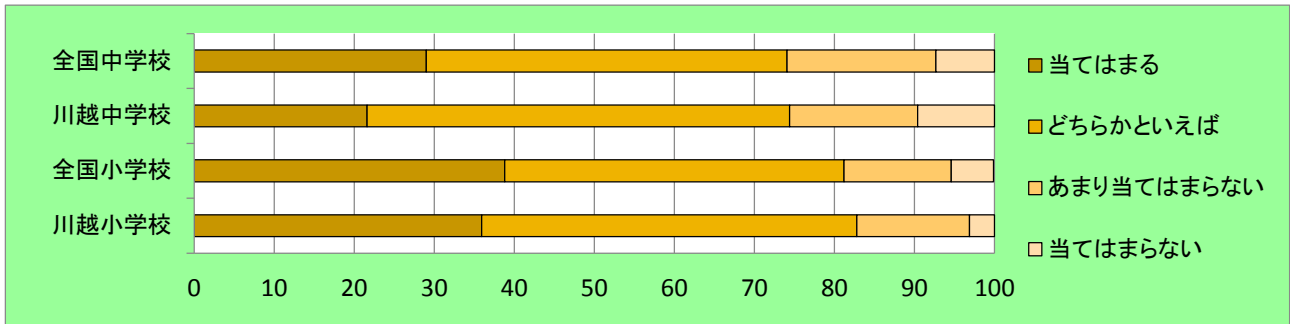
Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



⑤自尊感情

**\*自尊感情の高い子どもの割合は、全国の割合とほぼ同じである。**

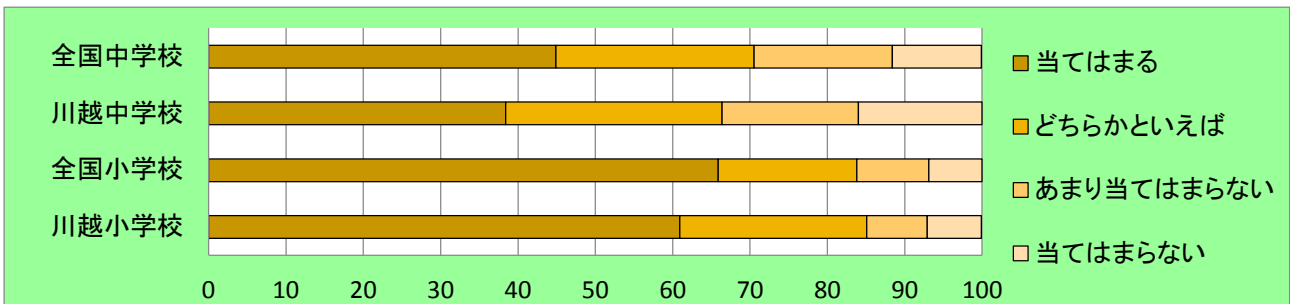
Q：自分には、よいところがあると思いますか。



⑥キャリアの形成

**\*中学生より小学生の方が将来の夢や目標が持っている。**

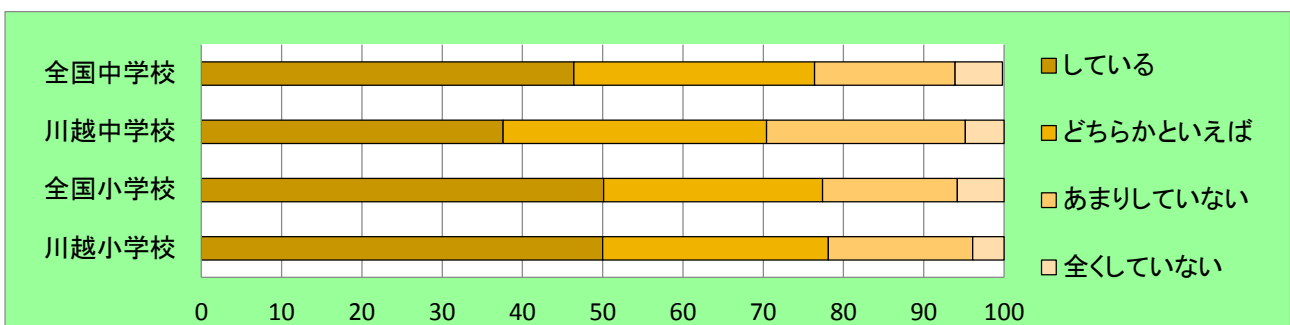
Q：将来の夢や目標を持っていますか。



⑦家庭でのコミュニケーション

**\*約80%の小学生と約70%の中学生が、家の人と学校の出来事について話ができている。**

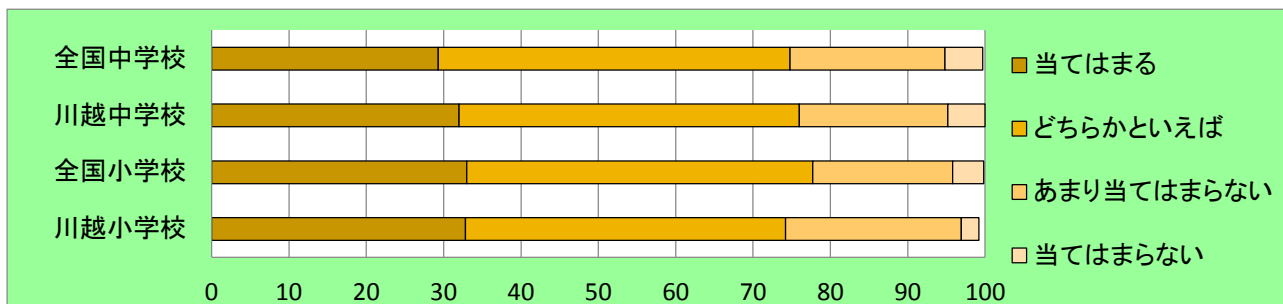
Q：家の人と学校での出来事について話をしていますか。



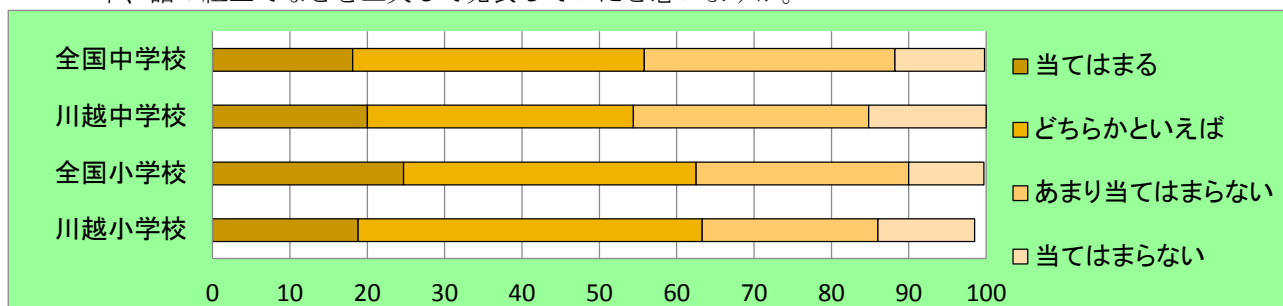
⑧主体的・対話的な深い学びについて

**\*主体的に学習しようとする児童生徒は約8割となっているが、自分の考えをうまく伝えるように工夫して発表することが苦手な児童生徒は約4割である。また、約3割の児童生徒が話し合う活動の中で自分の考えを深めたり広げたりすることが十分にできていない。**

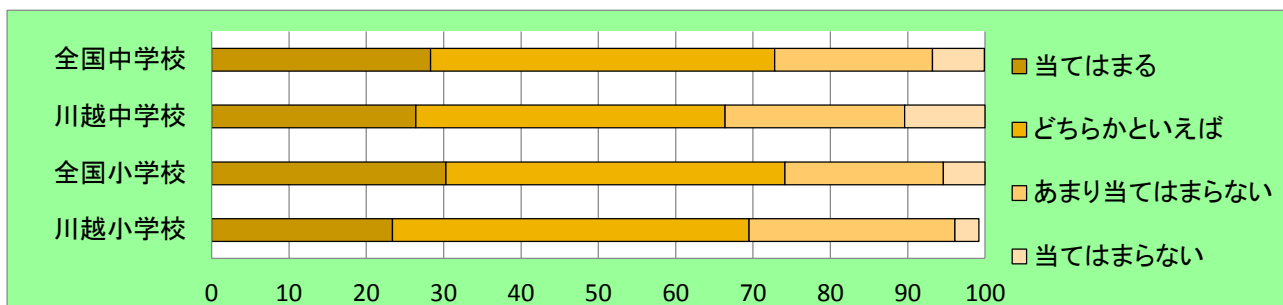
Q：今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



Q：今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



Q：児童・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



(4) 学校質問紙の結果からみえる児童生徒の姿

① 規律ある学習環境の維持（学習規律）

「学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか」という問いに対して、全ての学校が「よく行った」と回答している。一方、児童生徒質問紙の「学校の規則を守っていますか」という問いに対し、小学校の肯定的回答をした児童の割合が92.2%、中学校の肯定的回答をした生徒の割合が96%となっており、学校の取組と児童生徒の受け取りがおおむね一致しているといえる。当町小中学校で共通した『学びのルール（川越スタンダード）』が定着し、規律ある中で授業が行われているといえる。

## ② 「分からない」を「分かる」へ（学習指導の徹底）

「(小学校「国語・算数」中学校「国語・数学・英語」において、)前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」という問いに対して、全ての学校が「行った」と回答している。一方、児童生徒質問紙の「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の問いに対して、小学生の96.1%が、中学生の88.8%が肯定的回答（「当てはまる」「どちらかという当てはまる」となっており、学校の取組と児童生徒の受け取りがおおむね一致しているといえる。今回の学力学習状況調査の結果からも、いずれの教科においても正答率が極端に低い児童生徒がおらず、底上げが図られている要因の一つであると考えられる。

## ③ 自己肯定感・自己有用感の育成（自尊感情）

「学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか」という問いに対して、小中学校の全ての学校が肯定的回答であった。一方、また、児童生徒質問紙において「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに小学生の82.8%、中学生の74.4%が、肯定的回答であったが、それぞれ昨年度から2～3ポイント減少している。

クロス集計によると、各教科において「自分にはよいところがある」と回答している子どもの方が正答率も高いという結果が出ている。自尊感情の育成には、学校生活の中での仲間との経験や感情の共有が重要な要素となる。主体的・対話的で深い学びと自尊感情の高まりは相乗効果を促す。一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、よいタイミングで評価や承認を行う。



## 2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策

### 全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、児童生徒自身が「何を学んだか」「どんなことができるようになったか」を実感できるよう授業改善を進める。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが「できた」と実感が持てる家庭学習へつなげる。
2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
3. 自分の考えを整理して書く力をつけるための指導を行う。
4. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

### 国語

#### 1. 書くことの指導の充実

- ・書く活動において、児童生徒の興味関心に応じた題材を設定したり、目的や相手を明確にしたりすることで、児童生徒が主体的に取り組めるように工夫する。
- ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。（国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく）
- ・自分の考えを書く活動では、順接、逆接、並列など、言葉と言葉や文と文の関係を考えながら正しい接続語を使えるように指導する。

#### 2. 語彙（ごい）を豊かにする指導の工夫

- ・文脈に即した漢字や語句を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を数多く取り



入れる。

- ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりする。読書タイムを設定するなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

### 3. 自分の考えをまとめる活動の充実

- ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限などの条件を与えて書かせるようにする。
- ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
- ・学習したことが日常生活につながっていることを意識できるような授業づくりを心がける。

### 4. 短時間で文章から様子やあらすじをイメージし捉える力をつける

- ・初めて読む文章から得た情報を整理し、短時間で大まかな「あらすじ」をつかんだり、登場人物の心情について確認したりする学習活動を行う。

## 算 数 ・ 数 学

### 1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

### 2. わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・社会の事象や数学の事象から課題を見出し、児童生徒が主体的に取り組める授業を展開していく。また、算数・数学の時間に学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。
- ・算数・数学用語、数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
- ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
- ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。

### 3. 図形の性質や構成要素を正しくイメージし理解できるような工夫

- ・実際に具体物を使って操作させるなど、経験させる活動時間をしっかりと確保する。
- ・ICT 機器の導入に伴い、映像を見たりソフトを活用したりすることがより容易になる。「図形イメージの確認や理解」のために ICT 機器の活用を積極的に行う。

## 英 語

### 1. スモールトークの充実

- ・聞き取った英語に対して、自分の考え方や思いを持ち、英語で伝える習慣をつけていく必要がある。小学生の段階からスモールトークを習慣化するという授業改善を行い、中学生では、自分の考えや思いをより詳細に英語で伝える力を育成していく。

### 2. A L T を有効活用した授業

- ・A L T を有効活用し、ネイティブの英語に触れる機会を増やすことで、英語を聞く力の向上を図るとともに、英語でのコミュニケーション力を育成する。





### 3. 町教育委員会による手立て

#### (1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的・基本的な力の向上を目指します。

#### (2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員及びALTの配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人一人の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

#### (3) 学力向上推進委員会の機能的な運営

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

#### (4) 校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事、学力向上アドバイザーが各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を拡充します。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

#### (5) 家庭学習および読書活動の推進

三重県下で展開されている学力向上県民運動と連動しながら、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、「家庭学習の定着に向けた取組の必要性および具体的な家庭支援法」を各家庭へ呼び掛けていきます。また、「読書旅行（読書日本一周・読書世界一周）」の取り組みを推進し、小学校低学年から語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

#### 『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成

2019年4月に改定しました川越町教育基本方針で示した通り、川越町は【『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成】を基本方針としています。

『豊かな心』を培うために必要なこと（3つ）、

「非認知能力を高めること」

「個性を大切にすること」

「相手の個性を尊重すること」

を大切にし、教育活動を行います。

